

パーリ十六慧と北傳「～慧者」リストの對應關係

岩 井 昌 悟

(東 洋 大 学)

問 題 の 所 在

Samyuttanikāya (SN.)055-059～74と⁽¹⁾*Anguttaranikāya* (AN.)001-021-031～046に以下の記述が見出される。⁽²⁾

SN. 055-059～074では①善人との交際 (sappurisasamseva), ②正法の聴聞 (saddhammassavana), ③如理作意 (yonisomanasikāra), ④法随法の実践 (dhammānudhammappaṭipatti) の四法 (四預流支) が³, AN. 001-021-031～046では「身至念」(kāyagatā-sati) の一法が³, 以下の16の項目の増大に資すると述べる。

(1) 「智慧の獲得」(paññāpaṭilābha)

(2) 「智慧の増長」(paññāvuddhi)

(3) 「智慧の廣大」(paññāvepulla)

(4) 「大慧者性」(mahāpaññatā)

(5) 「廣慧者性」(puṭhupaññatā)

(6) 「廣大慧者性」(vipulapaññatā)

(7) 「深慧者性」(gambhīrapaññatā)

(8) 「無等慧者性」(* asamapaññatā)⁽³⁾

(9) 「宏慧者性」(bhūripaññatā)

- (10) 「智慧の多々」 (paññābāhulla)
- (11) 「迅慧者性」 (sighapaññatā)
- (12) 「輕慧者性」 (lahupaññatā)⁽⁴⁾
- (13) 「捷慧者性」 (hāsupaññatā)⁽⁵⁾
- (14) 「速慧者性」 (javanapaññatā)
- (15) 「利慧者性」 (tikkhapaññatā)
- (16) 「決擇慧者性」 (nibbedhikapaññatā)

これと同様のリストが *Paṭisambhidāmagga* の Mahāpaññāvagga にも
存し、「十六慧」 (soḷasa-paññā) としてまとめられている。⁽⁶⁾

このリストは、ニカーヤ中で主に舍利弗の属性として記される「大慧者」「廣慧者」などの「～慧者」を列挙したリストから発展したものと思われる。

一例を挙げれば、SN. 002-003-009に阿難が舍利弗を「～慧者」であると稱え、それを釋尊が是とし、さらに Susīma (須深；須尸摩) 天子がそれを繰り返す記事がある。そこで舍利弗は以下のように稱賛される。

SN. 002-003-009：舍利弗は賢者 (paṇḍita) であり、大慧者 (mahāpañña), 廣慧者 (puṭhapañña), 疾慧者 (hāsupañña)⁽⁷⁾, 速慧者 (javanapañña), 利慧者 (tikkhapañña), 決擇慧者 (nibbedhikapañña)⁽⁸⁾です。

これに對應する諸漢譯經の對應箇所を見ると以下のようにになっている『雜阿含經』1306では、阿難による舍利弗への稱賛を釋尊が繰り返すところで語句が異なるので、2種のリストを挙げる。

『雜阿含經』1306：彼尊者舍利弗。……智慧正受。捷疾智慧。利智慧。出離智慧。決定智慧。大智慧。廣智慧。深智慧。無等智慧。智寶成就。

『同上』：舍利弗比丘。……智慧正受。超智。捷智。利智。出智。決定

智。大智。廣智。深智。無等智。智寶成就⁽⁹⁾。

『別譯雜阿含經』305：舍利弗比丘。……成就智慧。速疾智。利智。善知出要。深解出乘。滿足實智⁽¹⁰⁾。

以上の資料で『雜阿含經』1306の「利智慧」「利智」と『別譯雜阿含經』305の「利智」がSN. 002-003-009の「利慧者」(tikkhapañña)に對應すること、『雜阿含經』1306の「決定智慧」「決定智」が「決擇慧者」(nibbedhikapañña)に、「大智慧」「大智」が「大慧者」(mahāpañña)に、「廣智慧」「廣智」が「廣慧者」(puṭhupañña)に對應することは明確であろう。

さらに『雜阿含經』1306の「捷疾智慧」と『別譯雜阿含經』305の「速疾智」がSN. 002-003-009の「疾慧者」(hāsupañña)と「速慧者」(javanapañña)の両者を合わせて譯したものであることは容易に見て取れる。「超智」「捷智」は特に「超智」が何故このように譯されたかは不明であるが、繰り返しの箇所に見れることを考慮すれば、「疾慧者」か「速慧者」に對應すると見られる。

『雜阿含經』1306の「深智慧」「深智」や「無等智」「無等智」はSN. 002-003-009に對應が見られないが、先の十六慧を視野に入れば「深慧」「深智」は(7)「深慧者性」(gambhirapaññatā)に、「無等智」「無等智」は(8)「無等慧者性」(* asamapaññatā)に對應を見出せる。

『別譯雜阿含經』305の「深解出乘」は(7)「深慧者性」(gambhirapaññatā)に對應するかもしれないが、決定が困難である。

残る「出離智慧」「出智」「善知出要」,「智寶成就」,「滿足實智」は、いずこから出てくるのであろうか。

また十六慧の中、(1)「智慧の獲得」(paññāpaṭilābha)、(2)「智慧の増長」(paññāvuddhi)、(3)「智慧の廣大」(paññāvepulla)、(6)「廣大慧者性」(vipulapaññatā)、(9)「宏慧者性」(bhūripaññatā)、(10)「智慧の

多々」(paññābāhulla), (11)「迅慧者性」(sighapaññatā), (12)「輕慧者性」(lahupaññatā)については漢譯に對應はないであろうか。(6)「廣大慧者性」(vipulapaññatā)と(9)「宏慧者性」(bhūripaññatā)は「大智慧」「廣智慧」と、(11)「迅慧者性」(sighapaññatā)は「捷疾智慧」と意味内容からして紛らわしい。

上の一例からも分かるように「～慧者」のリストの南北兩傳の一致不一致はにわかに決定できず、また北傳の種々様々な譯語の中には原語を決定しにくいものもあるため、對應關係を明らかにするのは容易ではない。しかし對應關係が明確になり、さらには系統だてて整理することができれば、上の疑問の答え、さらには同様の「～慧者」のリストを含む諸大乘經典が存するため、それらと部派との關係を探るような研究にも寄與すると考えられる。

本論では漢譯の「～慧者」の原語を特定することで、パーリと漢譯の對應關係を可能な限り明らかにしたい。⁽¹¹⁾

1. 北傳のリストの梵語形

パーリと漢譯の對應關係を明確にするには、どうしても「～慧者」のリストに擧がるそれぞれの梵語形を知らねばならない。それには梵藏漢のテキストがそろった資料にもとづく必要がある。

まず *Mahāvīyūtpatti* (楨本) の「聲聞功德名號」(śrāvakaguṇāḥ) の中、1102～1111に記載されているものがもっとも有用である。これは『解深密經』と『佛地經』の因縁分に説かれる聲聞十三徳の第七徳「捷圓滿」⁽¹²⁾をいう「十慧」とほぼ完全に一致しているので、これを漢藏併記して紹介し、*Mahāvīyūtpatti* によって梵語を示す。

與無量大聲聞衆俱。一切調順。皆是佛子。……捷慧。速慧。利慧。出
慧。勝決擇慧。大慧。廣慧。及無等慧。慧寶成就⁽¹³⁾。

de ñan thos kyi dge 'dun tshad med pa thams cad kyan cañ śes pa /
sañs rgyas kyi sras / …… śes rab myur ba (āsu-prajña 捷慧者) / śes
rab mgyogs pa (javanāp. 速慧者) / śes rab rno ba (tikṣṇa-p. 利慧者) /
ñes par 'byun ba'i śes rab can (niḥsaraṇa-p. 出離慧者) / ñes par rtogs
pa'i śes rab can⁽¹⁴⁾ (nairvedhika-p. 勝決擇慧者) / śes rab che ba (mahā-p.
大慧者) / śes rab yañs pa (prthu-p. 廣慧者) / śes rab zab pa
(gambhira-p. 深慧者) / śes rab mñam pa med pa (asama-p. 無等慧者) /
śes rab rin po che dañ ldan pa (prajñāratnasamanvāgata 慧寶成就)⁽¹⁵⁾ /
漢において「深慧」(gambhira-p.) が欠落して九慧になっているほかは、
一致している⁽¹⁶⁾。

またこの藏テキストは、舍利弗の般涅槃と關わる記事においてチュンダ
沙彌が舍利弗入滅の知らせを阿難と釋尊のところにもたらし、阿難が舍利
弗について語る中に見られる「～慧者」のリストともよく一致する。對應
する漢譯とともに示す。⁽¹⁷⁾

『雜阿含經』638：「然尊者舍利弗……捷疾智慧 (āsu-p, javana-p.)。深
利智慧 (tikṣṇa-p.)。超出智慧 (niḥsaraṇa-p.)。分別智慧 (nairvedhika-
p.)。大智慧 (mahā-p.)。廣智慧 (prthu-p.)。甚深智慧 (gambhira-p.)。
無等智慧 (asama-p.)。智寶成就 (prajñāratnasamanvāgata)⁽¹⁸⁾。

『根本說一切有部毘奈耶雜事』：然具壽舍利子……有正知慧。速疾慧
(āsu-p, javana-p.)。出離慧 (niḥsaraṇa-p.)。趣入慧 (nairvedhika-p.)。
大利慧 (mahā-p, tikṣṇa-p.)。寬廣慧 (prthu-p.)。甚深慧 (gambhira-
p.)。無等慧 (asama-p.)。空慧具足⁽¹⁹⁾。

bkaḥ 'gyur, 'dul ba (De 228a/4-6): tshe dañ ldan pa śā ri'i bu ni …… /

śes rab can (prajñāvat) / śes rab myur ba (āśuprajña) / śes rab
mgyogs pa (javanaprajña) / śes rab rno ba (tikṣṇaprajña) / ñes par
'byun ba'i śes rab can (niḥsaraṇaprajña) / ñes par 'byed pa'i śes rab
can (nairvedhikaprajña) / śes rab che ba (mahāprajña) / śes rab yañs
pa (prṭhuprajña) / śes rab zab pa (gambhiraprajña) śes rab mñam pa
med pa (asamaprajña) / śes rab rin po che (ratnaprajña) dañ ldan
pa /

先に見た『別譯雜阿含經』305の「深解出乘」「満足實智」やここに新た
 に見出される『根本有部律雜事』の「空慧」に問題が残るものの、「出離
 智慧」「出智」「善知出要」と「智寶成就」の原語は、それぞれ ‘niḥsara-
 ṇa-prajña’ と ‘prajñāratnasamanvāgata’ であることがここで明らかにな
 った。

また梵語テキストと藏漢がそろった資料として『一萬八千頌般若』がある。
 しかしここから梵語形が採集されるのは六慧のみである。菩薩摩訶薩が般
 若波羅蜜を行じることを得る利益を列挙する中に現れる。

『大般若波羅蜜多經 第三會』：善入疾慧 (āśu-p.)。利慧 (tikṣṇa-p.)。
 速慧 (javana-p.)。達慧 (nairvedhika-p.)。廣慧 (prṭhu-p.)。深慧
 (gambhira-p.)。大慧 (mahā-p.)。無障礙慧⁽²⁰⁾ (?)。

Aṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā: ⁽²¹⁾ āśuprajñakuśalaḥ tikṣṇapraj-
ñakuśalaḥ javanaprajñakuśalaḥ nairvedhikaprajñakuśalaḥ prṭhu-
prajñakuśalaḥ asamaprajñakuśalaḥ

bka' 'gyur, *ser phyin* (北京 Pi 281a/5-6): śes rab myur ba (āśu-prajña
 疾慧) la mkhas pa dañ / śes rab rno ba (tikṣṇa-p. 利慧) la mkhas pa
dañ / śes rab mgyogs pa (javana-p. 速慧) la mkhas pa dañ / ñes par
'byed pa'i śes rab (nairvedhika-p. 達慧) la mkhas pa dañ / śes rab

yañs pa (pr̥thu-p. 廣慧) la mkhas pa dañ / śes rab mñam pa med pa
(asama-p. 無等慧) la mkhas pa dañ /

ここで梵藏漢の異同を示せば、梵藏は全部で六慧を挙げ、十慧の「出離慧」「大慧」「深慧」「慧寶成就」を欠く。漢では「深慧」「大慧」が加わって八慧になる。しかし「無等慧」の替わりに「無障礙慧」が入る。

なお「二萬五千頌般若」も梵語原典が刊行されているため、参照すると以下のようである。『大智度論』に引用されているテキストもともに挙げる。

『大般若波羅蜜多經 第二會』：善入疾慧 (āśu-p.)。善入利慧 (tikṣṇa-p.)。善入速慧 (javana-p.)。善入力慧 (?)。善入達慧 (nairvedhika-p.)。善入廣慧 (pr̥thu-p.)。善入深慧 (gambhira-p.)。善入大慧 (mahā-p.)。善入無等慧 (asama-p.)。善入眞實慧 (?)。善入珍寶慧 (prajñāratna⁽²²⁾)。

『摩訶般若波羅蜜經』：善知疾慧 (āśu-p.)。善知有力慧 (?)。善知利慧 (tikṣṇa-p.)。善知出慧 (niḥsaraṇa-p.)。善知達慧 (nairvedhika-p.)。善知廣慧 (pr̥thu-p.)。善知深慧 (gambhira-p.)。善知大慧 (mahā-p.)。善知無等慧 (asama-p.)。善知實慧^{(23) (24)}。

『大智度論』：善知疾慧 (āśu-p.)。善知有力慧 (?)。善知利慧 (tikṣṇa-p.)。善知出慧 (niḥsaraṇa-p.)。善知達慧 (nairvedhika-p.)。善知廣慧 (pr̥thu-p.)。善知深慧 (gambhira-p.)。善知大慧 (mahā-p.)。善知無等慧 (asama-p.)。善知寶慧^{(25) (26)} (prajñāratna)。

『放光般若經』：善於卒(平)知。善於微知。善於厭知。善於大智。善於無涯底智⁽²⁷⁾。

Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā: tikṣṇamārgakuśalo javana-prajñākuśalo nairvedhikaprajñākuśalaḥ pr̥thakpr̥thakprajñākuśalo ⁽²⁸⁾ 'samantaprajñākuśalo

bka' 'gyur, ser phyin (北京 Di 3b/4); *bstan 'gyur ser phyin* (Ca 156a/4): śes rab myur ba (āśuprajña 疾慧) dañ / śes rab rno ba (tikṣṇaprajña 利慧) dañ / śes rab mgyogs pa (javana-p 速慧) dañ / nes par 'byed pa'i śes rab (nairvedhika-p.達慧) dañ / yañs pa'i (yañ dag pa'i) śes rab (pr̥thu-p.廣慧) dañ / mi mñam pa dañ (/) mñam pa'i śes rab (asama-sama-p. 無等等慧?) la mkhas par rig par bya 'o. /

梵からは 'tikṣṇamārga-' を ' * tikṣṇaprajñā-' と, 'pr̥thakpr̥thakprajñā-' を ' * pr̥thuprajñā-' と見ても、五慧の梵語形が得られるのみである。数から言えば『放光般若經』が一致している。「厭智」は nairvedhika-p. をパーリ語の nibbidā に對應する nirvid のような単語からの派生語 (* nairvedika-p.) として誤解したと仮定すれば、對應させることは不可能ではない。その場合、「大智」が ' * pr̥thuprajñā-' に對應することも考慮に入れる必要があろう。しかし憶測に過ぎず、對應の決定を断念せざるを得ない。

『摩訶般若』と『大智度論』は「實慧」と「寶慧」の異同を除き、一致して十慧を擧げる。今までに擧がらなかった「有力慧」が入って、十慧の「速慧」を欠く。『大般若第二會』はこれに「速慧」を加えるが、「出離慧」を欠き、しかし「眞實慧」と「珍寶慧」を併記するため合計十一慧になる。

藏譯は『一萬八千頌』の藏譯と同じく六慧を擧げるが、「無等等慧」が「無等等慧?」に変わっている點が異なる。

『大般若第二會』に「眞實慧」が、十慧を擧げる『摩訶般若』に「實慧」が見出されるが、これは先に擧げた『別譯雜阿含經』305の「滿足實智」と對應するとも考えられる。これと「慧寶成就」との對應を考察しなければならない。「寶」を「實」とする誤寫の可能性の考慮である。

『摩訶般若』の底本は「寶慧」とするが異読に「實慧」を有し、『大智度

論』に引用されたテキストでは「實慧」となっているが、これも異読では「寶慧」である。

『大般若第二會』が「眞實慧」と「珍寶慧」の兩者を有することは、「實慧」を誤寫にもとづくと考えることに抵触する。しかし『大智度論』に引用された『摩訶般若』は以上のようなのであるが、上記の記述につづく箇所⁽³⁰⁾で解説されるのは、各「～慧」の中、「疾慧」「出慧」「達慧」「廣慧」、「深慧」、「深智慧」(利慧?)⁽³¹⁾「大慧」「無等慧」「寶慧」⁽³²⁾のみであって「力慧」(有力慧)は無視され、特に「實慧」ではなく「寶慧」に對して解説を加えていることから、「實慧」が誤寫によるものである可能性は完全には排除できない。いずれにせよ、現時点では「實慧」に當る梵語形も藏の譯語形も得られない。

もう一つ資料を加えることができる。『瑜伽師地論』(卷第八十三 攝異門分之上)⁽³³⁾に以下の智慧が列擧されている。()内の梵語とチベット語は『瑜伽師地論総索引』⁽³⁴⁾による。

生長增益廣大慧 (śes rab rgyas pa dañ 'phel ba dañ yaṅs pa)

清淨慧 (viśuddhā prajñā: śes rab rnam par byaṅ ba)

成辦慧 (śes rab 'byor pa)

圓滿慧 (śes rab yoṅs su skoṅ ba)

無退慧 (śes rab yoṅs su mi ṅams pa)

捷慧 (śes rab myur ba ṅid pa)

速慧 (śes rab mgyogs pa ṅid)

利慧 (śes rab rno ba ṅid)

出慧 (ñes par 'byuṅ ba'i śes rab ṅid)

決擇慧 (ñes par 'byed pa'i śes rab ṅid)

甚深慧 (śes rab zab pa)

大慧 (śes rab chen po)

廣慧 (śes rab yaṅs pa)

無等慧 (śes rab mñam pa med pa)

慧寶 (śes rab rin po che)

ここで下線を付した「捷慧」以降はすでに見た『解深密經』などの十慧と同じであるが、その前に今までに見られなかった5つが加わる。

いくつか不明点が残ったものの、ここまでの「～慧者」のリストの梵語形と漢譯の對應が大まかではあるが明らかになった。十六慧の(1)「智慧の獲得」(paññāpaṭilabha), (2)「智慧の増長」(paññāvuddhi), (3)「智慧の廣大」(paññāvepulla), (6)「廣大慧者性」(vipulapaññatā), (9)「宏慧者性」(bhūripaññatā), (10)「智慧の多々」(paññābāhulla), (11)「迅慧者性」(sīghapaññatā), (12)「輕慧者性」(lahupaññatā)の8つには、對應するものを北傳に見出すことができない。

以上のことを踏まえながら、以下にニカーヤと阿含中に現れる「～慧者」のリストを全て挙げて、漢譯語の原語の推定を試み、對應關係を見て行く。

2. ニカーヤと阿含のリストの對應關係

すでに「～慧者」のリストを舍利弗の屬性として挙げる用例を2例(スシーマ天子の經と舍利弗の入滅記事)見たが、ニカーヤと阿含の中に見られる他の用例を収集して、既出の2例の用例も含めて、ここに文献別に一覧を作成する。同じ文献の中でも譯語が一致していないため、こうすることでより確實に對應關係を明らかにできよう。ただし十六慧の資料はここでは繰り返さない。

文献名の前に附す①はスシーマ天子の經、②は舍利弗入滅の記事であって既出のものであり、③は「自恣經」と呼ばれるものであり、多くの資料が對應關係にある。⁽³⁵⁾ 自恣の時に釋尊が諸比丘らにご自身の身上に非難すべき點があるか否かを問われ、これに舍利弗が「否」と答え、つづけて自分の身上に非難すべき點があるか否かを釋尊に尋ねる。釋尊が「否」と答えてから、舍利弗を稱賛する箇所「～慧者」のリストがある。

なお一件、「～慧者」を佛陀の属性とするものがある。⁽³⁶⁾ これを④とする。

2-1. パーリ資料

① SN. 002-003-009: paṇḍito bhante āyasmā sārīputto. mahāpaṇḍito bhante āyasmā sārīputto. puṭhupaṇḍito bhante āyasmā sārīputto. hasupaṇḍito bhante āyasmā sārīputto. javanapaṇḍito bhante āyasmā sārīputto. tikkhapaṇḍito bhante āyasmā sārīputto. nibbedhikapaṇḍito bhante āyasmā sārīputto.

③ SN. 008-007: paṇḍito tvaṃ sārīputta mahāpaṇḍito tvaṃ sārīputta puṭhupaṇḍito tvaṃ sārīputta hāsupaṇḍito⁽³⁷⁾ tvaṃ sārīputta javanapaṇḍito tvaṃ sārīputta tikkhapaṇḍito tvaṃ sārīputta nibbedhikapaṇḍito⁽³⁸⁾ tvaṃ sārīputta.

④ *Dīghanikāya* (DN.) 030 ‘Lakkhana-s.’: 「細薄皮相」を有する者は轉輪聖王になった場合、大慧者になり、欲を享受する者らの中、智慧に關して等しいもの、勝れた者がなく (mahāpaṇḍito hoti n’ āssa hoti koci pañśāya sadiso vā seṭṭho vā kāmabhogīnaṃ) 佛になった場合、大慧者、廣慧者、捷慧者、速慧者、利慧者、決擇慧者になり、一切衆生の中、智慧に關して等しいもの、勝れた者はいない (mahāpaṇḍito hoti puṭhupaṇḍito hāsupaṇḍito javanapaṇḍito tikkhapaṇḍito nibbedhikapaṇḍito

n' āssa hoti koci paññāya sadiso vā seṭṭho vā sabbasattānaṃ⁽³⁹⁾。

以上の他、パーリに *Majjhimanikāya* (MN.) 111 'Anupada-s.' があるが、⁽⁴⁰⁾これも上記と同様である。パーリの挙げる六慧のリストは一定して變動が見られない。

十六慧の個々の「～慧者」を、リストではなく単獨で用いる用例はパーリ聖典中に多々挙げることができる。⁽⁴¹⁾ただし「智慧の廣大」(paññāvepulla), 「廣大慧者」(vipula-p.), 「無等慧者」(* asama-p.), 「智慧の多々」(paññābahulla), 「迅慧者」(sighapañña), 「輕慧者」(lahupañña) はこの十六慧を列挙する以外の文脈で、単獨に言及されることがない。

例外として *Apadāna* に、アパヤが「私は利 (tikkha-)・捷慧者 (* hāsu-)・輕慧者 (lahupañño) にして、大慧者 (mahāpañño) である」と自稱するもの、⁽⁴²⁾ピリンダヴァッチャ (Pilindavaccha) が「利慧者 (tikkhapañño), 宏慧者 (bhūripañño), 捷慧者 (hāsu-), 「深慧者」(gambhirapaññavant), 「廣大慧者」(vepulla-), 「速慧者」(javanapañño)」と自称する記事があり、ここに lahu-p. (輕慧) と vepulla-p. ⁽⁴³⁾が見出せる。

「智慧の廣大」(paññāvepulla) 「無等慧者」(* asama-p.), 「智慧の多々」(paññābahulla) 「迅慧者」(sighapañña) は十六慧のリストの他には聖典中に用いられていないことになる。

2—2 漢譯資料

以下に漢譯資料を挙げる。⑤は『中阿含經』031「分別聖諦經」と『四諦經』であり、兩經とも舍利弗が四諦を廣説するものであり、對應關係にある。⁽⁴⁴⁾なお『中阿含經』031「分別聖諦經」に挙がるリストは『中阿含經』027「梵志陀然經」,⁽⁴⁵⁾『中阿含經』028「教化病經」⁽⁴⁶⁾に全く同じものが見出さ

れるが、③「自恣經」の對應經である『中阿含經』121「請請經」のリストはこれと一致しない。

①『雜阿含經』1306：彼尊者舍利弗。……智慧正受。捷疾智慧 (āśu-p, javana-p.)。 利智慧 (tikṣṇa-p.)。 出離智慧 (niḥsaraṇa-p.)。 決定智慧 (nairvedhika-p.)。 大智慧 (mahā-p.)。 廣智慧 (prthu-p.)。 深智慧 (gambhira-p.)。 無等智慧 (asama-p.)。 智寶成就 (prajñāratnasamanvāgata)。

①『同上』：舍利弗比丘。……智慧正受。超智 (āśu-p?)。 捷智 (javana-p.)。 利智 (tikṣṇa-p.)。 出智 (niḥsaraṇa-p.)。 決定智 (nairvedhika-p.)。 大智 (mahā-p.)。 廣智 (prthu-p.)。 深智 (gambhira-p.)。 無等智 (asama-p.)。 智寶成就 (prajñāratnasamanvāgata)。

②『雜阿含經』638：「然尊者舍利弗……捷疾智慧 (āśu-p, javana-p.)。 深利智慧 (tikṣṇa-p.)。 超出智慧 (niḥsaraṇa-p.)。 分別智慧 (nairvedhika-p.)。 大智慧 (mahā-p.)。 廣智慧 (prthu-p.)。 甚深智慧 (gambhira-p.)。 無等智慧 (asama-p.)。 智寶成就 (prajñāratnasamanvāgata)。

③『雜阿含經』1212：汝舍利弗。……捷疾智慧 (āśu-p, javana-p.)。 明利智慧 (tikṣṇa-p.)。 出要智慧 (niḥsaraṇa-p.)。 厭離智慧 (nairvedhika-p?)。 大智慧 (mahā-p.)。 廣智慧 (prthu-p.)。 深智慧 (gambhira-p.)。 無比智慧 (asama-p.)。 智寶成就 (prajñāratnasamanvāgata)。⁽⁴⁷⁾

『雜阿含經』から以上の4例が採集され、すべて十慧を挙げると見られる。譯語の不一致が明白である。先に言及したように「超智」に関しては繰り返しの箇所であることを考慮し、原語を同じと想定して、挙がる順序から以上のように推定した。他では「捷」が āśu-p. に、「疾」が javana-

p. に對應していると見られるが、ここだけは「捷智」に javana-p. が對應することになり疑問が残る。

また『雜阿含經』1212のみ、nairvedhika-p. に「厭離智慧」という譯語を充てている。これは先に『放光般若經』の「厭智」について述べたように、* nairvedika-p. と読んだことが推測される。

③『別譯雜阿含經』228：汝舍利弗……具足定心智慧。疾智 (āsu-p. or javana-p.)。捷智 (āsu-p. or javana-p.)。展轉智 (?). 有大種智 (?). 別智 (?). 唯除如來諸餘智慧。無能及汝深遠之智 (gambhira-p.?). 成就實智。⁽⁴⁸⁾

①『別譯雜阿含經』305：舍利弗比丘。……成就智慧。速疾智 (āsu-p, javana-p.)。利智 (tikṣṇa-p.)。善知出要 (niḥsaraṇa-p.)。深解出乘 (gambhira-p.?). 滿足實智。

『別譯雜阿含經』の2例は上の『雜阿含經』と異なり、十慧を取り出すことは不可能であろう。āsu-p. と javana-p. の順序が一定だとすれば、āsu-p. に「疾」と「速」を、javana-p. に「捷」と「疾」を充てていることになり、「疾」は āsu-p. と javana-p. に共通する譯語であることになる。先に決定を保留した「深解出乘」が「深遠之智」と同一であるとすれば、「深慧」との對應がより確かになる。「成就實智」「滿足實智」については、『二萬五千頌』のところで述べたことから、「慧寶成就」と對應するか否か、決定は保留せざるを得ない。

③『中阿含經』121「請請經」：舍梨子，汝有聰慧 (pañḍita)，大慧 (mahā-p.)。速慧 (āsu-p. or javana-p.)。捷慧 (āsu-p. or javana-p.)。利慧 (tikṣṇa-p.)。廣慧 (prthu-p.)。深慧 (gambhira-p.)。出要慧 (niḥsaraṇa-p.)。明達慧 (nairvedhika-p.)。舍梨子。汝成就實慧。⁽⁴⁹⁾ (prajñāratnasamanvāgata?)。

⑤『中阿含經』027, 028, 031：舍梨子比丘。聰慧 (paṇḍita)。速慧 (āśu-p. or javana-p.)。捷慧 (āśu-p. or javana-p.)。利慧 (tikṣṇa-p.)。廣慧 (prthu-p.)。深慧 (gambhīra-p.)。出要慧 (niḥsaraṇa-p.)。明達慧 (nairvedhika-p.)。辯才慧 (?)。舍梨子比丘。成就實慧 (prajñāratnasamanvāgata?)。

中阿含經は2例を有する。『中阿含經』121は「無等慧」を欠いて九慧になっており、『中阿含經』027は同じく九慧であるが、「大慧」を欠き、替わりに「辯才慧」が入る。『別譯雜阿含經』と同じく「慧寶」ではなく「實慧」をとるが、先と同じく決定を保留する。

挙げる順序が他のリストと一致しないため、āśu-p. と javana-p. の順序は決定できない。

以下はその他の資料である。なお『增壹阿含經』032-005と『受新歲經』は完全に同文である。

⑤『四諦經』：舍利曰比丘，慧。疾慧 (āśu-p.)。走慧 (javana-p.)。利慧 (tikṣṇa-p.)。方慧 (?)。深徹慧 (?)。惡慧 (?)。不厭能見慧 (?)。珍寶慧隨 (prajñāratnasamanvāgata⁵⁰)。

③『增壹阿含經』032-005：汝今智慧無能及者。種種智慧。無量智 (mahā-p.)。無邊之智 (prthu-p.)。無與等智 (asama-p.)。疾智 (āśu-p. or javana-p.)。捷智 (āśu-p. or javana-p.)。甚深之智 (gambhīra-p.)。平等之智 (51) (?)。

③『受新歲經』：汝今智慧無能及者。種種智慧。無量智慧。無邊之智。無與等智。疾智。捷智。甚深之智。平等之智。(52)

③『解夏經』：汝舍利弗。……具等引慧。聞慧。捷慧 (āśu-p.)。利慧 (tikṣṇa-p.)。出離慧 (niḥsaraṇa-p.)。了達慧 (nairvedhika-p.)。廣大清淨慧 (?)。甚深慧 (gambhīra-p.)。無等慧 (asama-p.)。具大慧寶

(prajñāratnasamanvāgata)⁽⁵³⁾。

②『根本説一切有部毘奈耶雜事』：然具壽舍利子……有正知慧。速疾慧 (āsu-p, javana-p.)。出離慧 (niḥsaraṇa-p.)。趣入慧 (nairvedhika-p.)。大利慧 (mahā-p, tikṣṇa-p.)。寬廣慧 (prthu-p.)。甚深慧 (gambhira-p.)。無等慧 (asama-p.)。空慧具足⁽⁵⁴⁾。

對應を不明とせざるものが多いが、『解夏經』の「廣大清淨慧」が『瑜伽師地論』の「清淨慧」(viśuddhā prajñā) との對應を予想させることが注目される。また先に十六慧の中で北傳に對應が見られないとした8つについては、ここでも對應が見出されない。

『有部律』の「空慧」は、對應する藏譯との對應關係から、また上記資料に類を一切有さないことから、「慧寶」の誤寫にもとづくと結論できよう。

3. 附 言

上に現段階で可能な限り、譯語とその推定される原語を示すことで、パーリと北傳との對應關係を示した。

『雜阿含經』のものが、十慧の雛形と言える *Mahāvīyūtpatti* や『解深密經』『佛地經』のリストによく對應するのに對し、『中阿含經』のものはそれとは系統が異なることが見て取れる。そして『般若經』類のものはまたそれらとも異なっている。しかしながらすべてを視野に入れてリストを系統別に整理することは困難である。

最後に附言としてパーリの十六慧に含まれず、北傳の十慧に表れる「出離慧」(niḥsaraṇa-p.) と「慧寶」(prajñāratna) が他の文脈でもパーリに對應を有さないか調査した結果を示し、また今後の課題として、以上の調

査からもれた大乘の漢譯資料を提示しておきたい。

「出離慧」(niḥsaraṇaprajñā) は、「縛られず、没頭せず、危難を見て、出離慧を具えて享受する者たち」(agathitā amucchitā anajjhāpannā ādinavadassāvino nissaraṇapaññā paribhuñjanti) または否定的に「縛られて、没頭して、危難を見ないで、出離慧を具えずに享受する者たち」(gathitā mucchitā ajjhōpannā anādinavadassāvino anissaraṇapaññā) という形で数箇所⁽⁵⁵⁾に現れる。

「寶慧」も以下の羅列の中に入っている。

Milindapañhā に佛・世尊の寶石店 (buddhassa bhagavato ratanāpaṇa) で賣られている寶石として戒寶 (sīla-ratana), 定寶 (samādhi-r.), 智慧寶 (paññā-r.), 解脫寶 (vimutti-r.), 解脫知見寶 (vimuttiñāṇadassana-r.), 無碍解寶 (paṭisambhidā-r.), 覺支寶 (bojjhaṅga-r.) が挙げられている。⁽⁵⁶⁾

また *Patisambhidāmagga* では苦智・苦集智・苦滅智・順苦滅道智を説明して、それぞれ苦・苦集・苦滅・順苦滅道を所縁として生じる慧 (paññā), 了知 (pañānā), 擇 (vicaya), 思擇 (pavicayo), 擇法 (dhammavicayo), 觀 (sallakkhaṇā), 察 (upalakkhaṇā), 各察 (paccupalakkhaṇā), 聰明 (pañḍiccam), 善巧 (kosallaṃ), 察智 (nepuññaṃ), 觀想 (vebhabyā), 思 (cintā), 近解 (upaparikkhā), 宏慧 (bhūri), 伶俐 (medhā), 導智 (pariṇāyikā), 正觀 (vipassanā), 正智 (sampajaññaṃ), 挿杵 (patodo), 慧 (paññā), 慧根 (paññindriyaṃ), 慧力 (paññābalaṃ), 慧劍 (paññāsattaṃ), 慧殿 (paññāpāsādo), 慧明 (paññā-āloko), 慧光 (paññā-obhāso), 慧燈 (paññāpajjoto), 慧寶 (paññāratanam), 無癡 (amoho), 擇法 (dhammavicayo), 正見 (sammādiṭṭhi) のことであると説明している。⁽⁵⁷⁾

このように「出離慧」や「慧寶」もパーリに對應がないわけではない。

ただし「慧寶」は少し時代が下ってから南方上座部で採用されたことが想像される。しかし兩者とも十六慧のリストには含まれなかった。

次に調査対象からもれた大乘の資料を挙げておく。ヴァリエーションが増えることが伺える。⁵⁸⁾

『大般若波羅蜜多經 初會』卷第三百五（初分多問不二品第六十一之九）

（大正06 pp. 851a）：善知根。善知根圓滿。善知根勝劣。善知慧。善知疾慧。善知力慧。善知利慧。善知速慧。善知達慧。善知廣慧。善知深慧。善知大慧。善知無等慧。善知眞實慧。善知珍寶慧。

『十住斷結經』（大正10 p. 975a）：分別四大不見有起生滅增減。便能曉知言數之慧。廣慧。深慧。無比之慧。

『菩薩念佛三昧經』（大正13 p. 813b-c）：時不空見現神通訖。即白佛言。云何菩薩。得大智慧。速疾智慧。猛利智慧。無相智慧。甚深智慧。廣大智慧。普遍智慧。不懼智慧。

『大方等大集經菩薩念佛三昧分』（大正13 p. 854a）：世尊。是諸菩薩摩訶薩等。云何當得如斯智慧。所謂大智慧。速疾智慧。機捷智慧。猛利智慧。無相智慧。巧入智慧。甚深智慧。廣普智慧。無畏智慧。圓滿智慧。

『大寶積經 菩薩藏會』「尸（羅）波羅蜜品」（大正11 p. 251a）：三者菩薩摩訶薩。獲得大慧。涌慧。高慧。廣慧。捷慧。利慧。速慧。深慧。決擇之慧。

『大寶積經 菩薩藏會』「般若波羅蜜多品」（大正11 p. 315b）：復次舍利子。是善男子善女人等。受持是經……復得如是十種功德稱讚利益。何等為十。一者成就機速慧。二者成就捷辯慧。三者成就猛利慧。四者成就迅疾慧。五者成就廣博慧。六者成就甚深慧。七者成就通達慧。八

者成就無著慧。九者常現前見一切如來。既得見已以清美頌而為讚歎。
十者善能如理請問如來。又能如理開釋疑難。舍利子。是名獲得十種功
德稱讚利益。

『大乘菩薩藏正法經』(大正11 p. 832b)：何等為四。一者淨戒高勝。
二者身相圓滿。三者身相圓滿。四者得大慧根。得速疾慧。猛利慧。極
迅速慧。甚深慧。善決擇慧。身壞命終得生天界。

『大方等大集經』(大正13 p. 35b)：復次寶女。菩薩修行菩提道時。
常修智慧。利慧。疾慧。無邊慧。甚深慧。解慧。淨慧。不動慧。無礙
慧。無勝慧。了知聲聞緣覺乘慧。無上慧。不知足慧。具足如是等慧。

註

- (1) SN. 055-059～074 vol. V, pp. 411-413. なお SN. 055-062～074が「預流相應」の「大慧品」(mahāpaññavagga) と呼ばれるが、SN. 055-059～062はその前の「有慧品」に入る。本論で参照したパーリ文献はすべて PTS のものである。
- (2) AN. 001-021-031～046 (vol. I p. 045)
- (3) SN. の底本は appamatta-p. 異読は asamatta-p. とする。AN. の底本は asāmantā-p. とあって異読に asampatta-p. あり。Paṭisambhidāmagga の底本は assāmantā-p. とし、異読に asāmantā-p. あり。このように揺れて一定しないが、本論では北傳に對應させてこれを * asama-p. としして扱う。
- (4) 底本は bahulapañña とするが異読により訂正する。
- (5) SN. hāsupaṇṇatāya. AN. hāsupaṇṇatāya. ただし SN. も異読 (Sinhalese 写本) に hāsupaṇṇatāya を有する。パーリには hāsa-p. (喜慧) と hāsu-p. (捷慧) の両方の読みがあるが、Paṭisambhidāmagga (vol. II, p. 199) や諸註釋を見ると「ここにある者が喜多く、喜悦多く、満足多く、悦多くして、諸戒を圓滿するが故に喜慧である (idh' ekacco hāsabahulo vedabahulo tuṭṭhibahulo pāmojjabahulo silāni paripūreti ti hāsupaṇṇā)」とするから南方上座部は「喜慧」(hāsa-p.) を正統とするようである。cf. *Dīghanikāya-aṭṭhakathā* (DN-A.) vol. III, p. 931. 片山一良『長部パーティカ篇 I』大藏出版、2005年、p. 474, 補注9参照。本論では北傳との對應を重

視して、以降 hāsu-p. を採用する。

- (6) *Paṭisambhidāmagga*, vol. II, pp. 189-202. なお *Paṭisambhidāmagga* のこの箇所は aṭṭhakathā の處々に引用されている。*DN-A.* vol. III, p. 931; *Majjhimanikāya-aṭṭhakathā* (*MN-A.*) vol. IV, p. 83; *Saṃyuttanikāya-aṭṭhakathā* (*SN-A.*) vol. I, p. 119; *Aṅguttaranikāya-aṭṭhakathā* (*AN-A.*) vol. II, p. 80; *Theragāthā-aṭṭhakathā*. vol. III, p. 105; *Mahāniddesa-aṭṭhakathā*. vol. I, p. 230. またこれを「十六慧」として言及する箇所は *MN-A.* (vol. III p. 209) に見られる。「[舍利弗は]、他のために準備された食事を食べて飢えを除いているかのように、他(長爪梵志)のために開始された説法によって智を送り、觀を増大させて阿羅漢に達し、聲聞の波羅蜜智の頂上と十六慧を洞察して住した (ettāvata c' esa parassa vaḍḍhitaṃ bhattaṃ bhuñjitvā khudaṃ vinodento viya parassa āradhāya dhammadesanāya ñāṇaṃ pesetvā vipassanaṃ vaḍḍhetvā arahattañ c' eva patto, sāvakapārami-ñāṇassa ca matthakaṃ, soḷasa ca paññā paṭivijjitvā ṭhito.)」。片山一良『中部中分五十經篇 I』大藏出版, 1999年, p. 443, 補注7参照。
- (7) hāsapañño とするが異読に hāsupañño あり。
- (8) *SN.* 002-003-009, vol. I, p. 063. 原文は以下の通り。paṇḍito bhante āyasmā sārīputto. mahāpañño bhante āyasmā sārīputto. puṭhupañño bhante āyasmā sārīputto. hāsupañño bhante āyasmā sārīputto. javanapañño bhante āyasmā sārīputto. tikkhapañño bhante āyasmā sārīputto. nibbedhikapañño bhante āyasmā sārīputto.
- (9) 『雜阿含經』1306 (大正02 p. 358c)
- (10) 『別譯雜阿含經』305 (大正02 p. 477b)
- (11) 本研究は、もともと、舍利弗が「大慧者である諸聲聞弟子の中の第一人者」とされることに關してその意味の検討を目的として開始したものであるが、資料を収集している間にこの困難な問題に突き当たり、2007年度日本佛教學會學術大會において「舍利弗の智慧——‘大慧’の意味するところ」と題して發表させて頂いた時點でははなはだ焦点の定まらない、まことに拙い發表となってしまう。本稿ではその突き当たってしまった問題に焦点を絞るために題名を改めさせていただいた。ご寛恕を請う次第である。
- (12) 西尾京雄『佛地經論之研究』国書刊行会, 1940年, 第二卷, pp. 39-40.
- (13) 『解深密經』(大正16 p. 688b-c); 『佛地經』(大正16 p. 720c)。西尾京雄『佛地經論之研究』国書刊行会, 1940年, 第二卷, pp. 152, 166.
- 『佛地經論』(大正26 p. 298c): 經曰。與無量大聲聞眾俱。一切調順皆是佛子。……捷慧。速慧。利慧。出慧。勝決擇慧。大慧。廣慧。及無等慧。慧

寶成就。

『深密解脫經』(大正16 665c)は「與諸無量聲聞衆俱。心善調伏。皆是佛子。……善得一切速疾般若。善得一切疾去般若。善得一切猛利般若」とする。

- (14) *Mahāvīyutpatti* は *hes par 'byed pa'i ses rab can* とする。
- (15) テクストは西尾京雄『佛地經論之研究』国書刊行会, 1940年, 第一卷, p. 3によった。
- (16) この出沒について西尾京雄『同書』第二卷, p. 93参照。『佛地經論』(大正26 p. 299a)に「①三業清淨隨智慧行。於佛所說法毘奈耶。速入其義。故名捷慧。②即於此中多入其義。故名速慧。能多行者說名速故。③入微細義故名利慧。④得能出離生死妙慧故名出慧。⑤此慧能為涅槃了因。是故說名勝決擇慧。勝決擇故名勝決擇。即是涅槃。此慧能為彼了因故。依彼立名。⑥問答決擇無窮盡故。名為大慧。⑦深廣圓滿善通達故。名為廣慧。⑧有本復說甚深妙慧。謂他不能窮其底故。⑨於軟根等諸聲聞衆。此慧勝故名無等慧。⑩此慧能招最上義故。名為慧寶。是諸聲聞具此慧寶。是故說名慧寶成就。」として「甚深妙慧」(*gambhīra-p.*)を含める。なお西尾京雄『同書』第二卷, p. 204参照。
- (17) バリーでは SN. 047-013 (vol. V, p. 161) が全体として對應するが, 該当記事がない。
- (18) 『雜阿含經』638 (大正02 p. 176c)
- (19) 『根本說一切有部毘奈耶雜事』(大正24 p. 290a)
- (20) 『大般若波羅蜜多經 第三會』卷第五百二十五 第三分方便善巧品第二十六之三 (大正07 p. 691b)
- (21) *The Gilgit Manuscript of the Aṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā: chapters 55 to 70 corresponding to the 5th Abhisamaya*, edited and translated by Edward Conze. Roma, Istituto italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1962, pp. 134, 326.
- (22) 『大般若波羅蜜多經 第二會』「巧便品」(大正07 pp. 331c-332a)
- (23) 正倉院聖語藏本が「寶」とする。
- (24) 『摩訶般若波羅蜜經』「方便品」(大正08 pp. 372c-373a)
- (25) 宋元明と宮内省圖書寮本は「實」とする。
- (26) 『大智度論』(大正25 pp. 640b-641a)
- (27) 「卒」を元明宮聖は「平」とする。
- (28) 『放光般若經』「漚沍品」(大正08 p. 112a)
- (29) *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā V*, ed. by Takayasu Kimura, 山喜房仏書林, 1992年, p. 110.

(30) 『大智度論』(大正25 p. 641a) 慧者一切智慧總相。

疾慧者，速知諸法。有人雖疾而智力不強。如馬雖疾而力弱。有人雖有強智力而不利。譬如鈍斧雖有大力不能破物。

出慧者，於種種難中能自拔出。亦能於諸煩惱中自拔出三界入涅槃。

達慧者，究盡通達於佛法中。乃至漏盡得涅槃。破壞諸法到法性中。

廣慧者，道俗種種經書論議。於佛法中有無無不悉知。

深慧者，觀一切法無量無相不可思議世間

深智慧者，能知久遠事。利中有衰，衰中有利。

大慧者，總具上諸慧名為大。又復一切衆生中佛為大。諸法中般若為大。知佛信法與大法和合故名為大。

無等慧者，於般若中不著般若。能如是深入更無異法可喻。復次菩薩漸漸行道到不可思議性中。無有與等者故名無等。

寶慧者，如如意寶自無定色隨前物而變。般若亦如是。自無定相隨諸法行。又如如意珠隨願皆得。般若亦如是。

(31) 「深慧」と「深智慧」が重複しているが、「深智慧」の解説中に「深智慧者，能知久遠事。利中有衰，衰中有利」とあることから「利智慧」の誤りではないかと推測される。

(32) 宋元明は「寶慧」をとるが，解説中に「如如意寶，自無定色，隨前物而變。般若亦如是」とあり，「寶慧」の読みを是とせざるを得ない。

(33) 『瑜伽師地論』(大正30 p. 761a)

(34) 横山紘一・広沢隆之『瑜伽師地論総索引 漢梵藏対照』山喜房佛書林，1996年

(35) *Manuscript remains of Buddhist literature found in Eastern Turkestan, facsimiles with transcripts translations and notes, edited in conjunctions with other scholars, by A. F. Rudolf Hoernle*, Second Edition, Delhi 1988, Vol. I, pp. 36-40参照。ただし該当箇所はない。

(36) なお舍利弗が「大慧者」とのみされるものもある。

SN. 055-026, vol. V, p. 380: paṇḍito, ānanda, sāriputto; mahāpaṇḍo, ānanda, sāriputto.

Buddhavaṃsa, pp. 4-6, vv. 43 50, 57, 74: sāriputto mahāpaṇḍo.

(37) 底本は hāsapaṇḍo. 異読 (Singhalese) に hāsupaṇḍo あり。

(38) SN. 008-007, vol. I, p. 191.

(39) DN. 030 'Lakkhana-s.' vol. III, p. 158. 底本は hāsapaṇḍo. 異読に支持は得られないが hāsupaṇḍo に訂正する。對應經である『中阿含經』059「三十二相經」(大正01 pp. 493c-494a) では「復次大人肌皮軟細。塵水不著。是謂

大人大人之相」。

- (40) *MN.* 111 ‘Anupada-s.’ vol. III, p. 025.
- (41) この用例については、収集した資料が多く、ここに提示することはできない。
- (42) *Āpadāna*, vol. II, p. 504, v. 26. tikkha-hāsu-lahupañño, mahāpañño tath’ ev’ ahaṃ. なお底本は tikkha-hāsa-とし、異読にも支持を得られないが tikkha-hāsu-と読む。
- (43) *Āpadāna*, p. 316, vv. 202, 203. 以下に全文を訳出する。sugandhadeho yasavā sīghapañño ca kittimā tikkhapañño bhūripañño, hāsu-gambhirapaññavā. (底本は bhāsagambhira-. 異読に hāsagambhira-あり)。vepulla-javanapañño, saṃsaranto bhavābhavā tass’ eva vāhasā dāni patto santisukhaṃ sivaṃ.
[私・ピリンダヴァッチャは] 輪廻しつつ、世々生々に、身體香り、名聲あり、稱賛を得て、迅慧者、利慧者、宏慧者、捷慧者、深慧者、廣大慧者 (vepulla = vipula-pañña), 速慧者であり、それ故、今や、寂靜の樂の幸を獲得した。
- (44) 『中阿含經』 031 「分別聖諦經」 (大正01 p. 467b)。パーリでは *MN.* 141 ‘Saccavibhaṅga-s.’ (vol. III p. 248) が對應し、『增壹阿含經』 027-001 (大正02 p. 643a) も對應經典であるが該当記事なし。
- (45) 『中阿含經』 027 「梵志陀然經」 (大正01 p. 458b)。對應經典の *MN.* 097 ‘Dhānañjāni-s.’ (vol. II p. 184) に該当記事なし。
- (46) 『中阿含經』 028 「教化病經」 (大正01 p. 461b)。 *MN.* 143 ‘Anāthapiṇḍikovāda-s.’ (vol. III p. 258) と『增壹阿含經』 051-008 (大正02 p. 819b) が對應經典であるが該当記事なし。
- (47) 『雜阿含經』 1212 (大正02 p. 330b)
- (48) 『別譯雜阿含經』 228 (大正02 p. 457b)
- (49) 『中阿含經』 121 「請請經」 (大正01 p. 610b)
- (50) 『四諦經』 (大正01 p. 814b)
- (51) 『增壹阿含經』 032-005 (大正02 p. 677a)
- (52) 『受新歲經』 (大正01 p. 858c)
- (53) 『解夏經』 (大正01 p. 861c)
- (54) 『根本說一切有部毘奈耶雜事』 (大正24 p. 290a)
- (55) *DN.* 013 ‘Tevijja-s.’ vol. I, p. 235; *MN.* 026 ‘Ariyapariyesana-s.’ vol. I, pp. 173-174; *SN.* 016-001, vol. II, p. 195; *SN.* 020-009, vol. II, p. 269. *AN.* 002-005-001~010, vol. I, p. 074.

- (56) *Milindaṭṭha* (p. 335). 中村元・早島鏡正『ミリンダ王の問い3』平凡社, 1964年, pp. 140-147参照。
- (57) *Paṭisambhidāmagga*, vol. I, p. 119. 『南伝大蔵経40』, p. 199. 同じ羅列が *Mahāniddesa* (vol. I p. 044) では, これらを具えるものが *dhira* であるとされる。
- (58) なお本論では個々の「～慧者」の意味内容には全く触れていないが, これを知る資料はすでに示した『佛地經論』(註16参照)と『大智度論』(註30参照)のほか, 註6に示した *Paṭisambhidāmagga* などと『瑜伽師地論』(大正30 p. 761a)を挙げることができる。